

愛媛県におけるEBPMへの取組



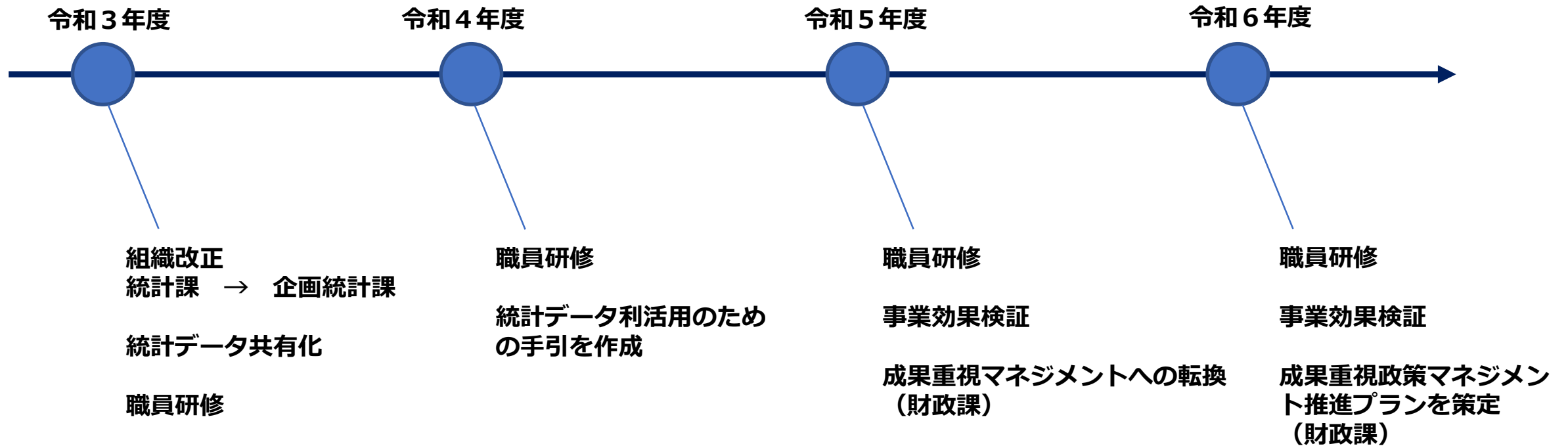
令和6年8月27日

愛媛県企画振興部政策企画局
企画統計課 高田 顕徳

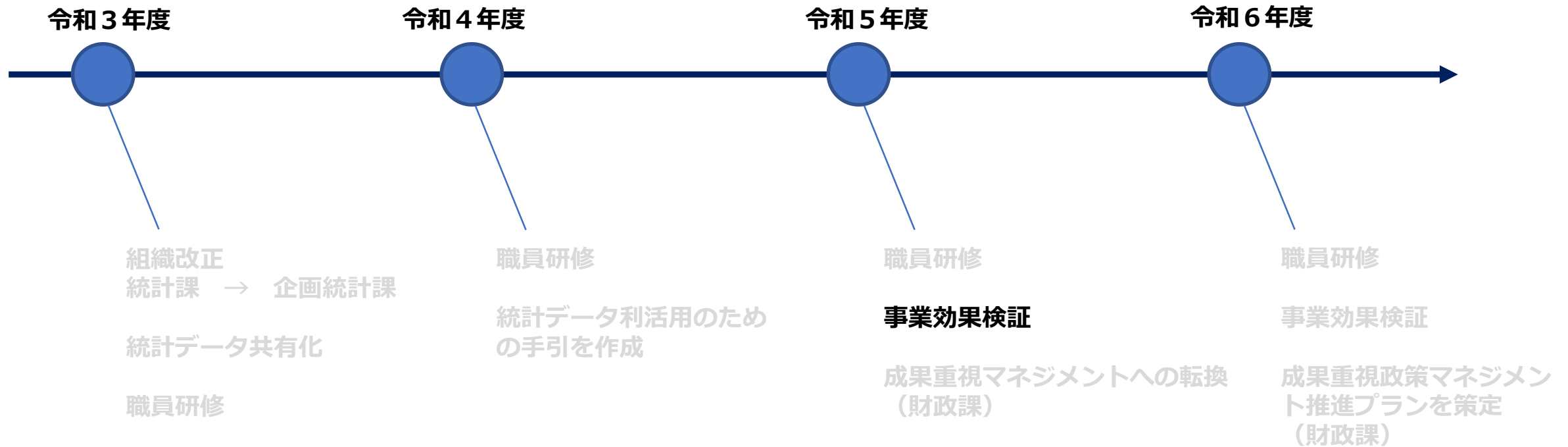
1. EBPMに関する取組み
2. 令和5年度EBPM推進事業について
 - (1) 企業合宿型ワーケーション定着促進事業
 - (2) 男性の家事参画・育休支援事業
3. 効果検証における課題
4. 今後の目標

EBPMに関する取組み

EBPMに関する取組み



EBPMに関する取組み



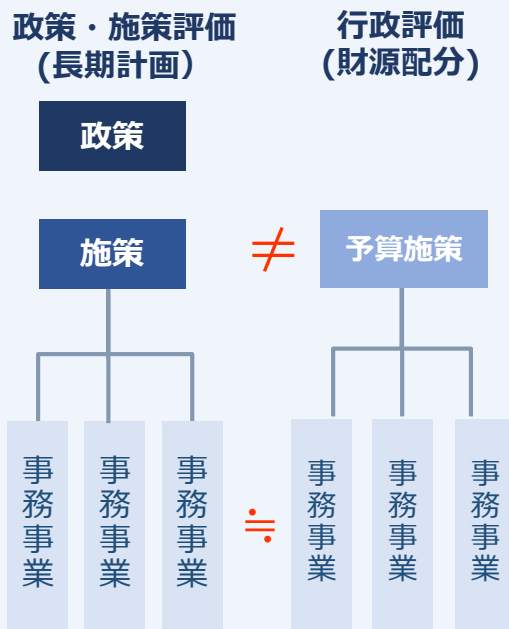
成果重視マネジメントとKPIマネジメント

- 総合計画の下に、政策から事務事業に至るまで**すべてがつながる政策体系**を構築
- **成果指標(KGI・KPI)を共通言語**とし、成果を重視した経営判断を行うマネジメント体制

〈従来の政策体系〉

2つの政策体系が併存

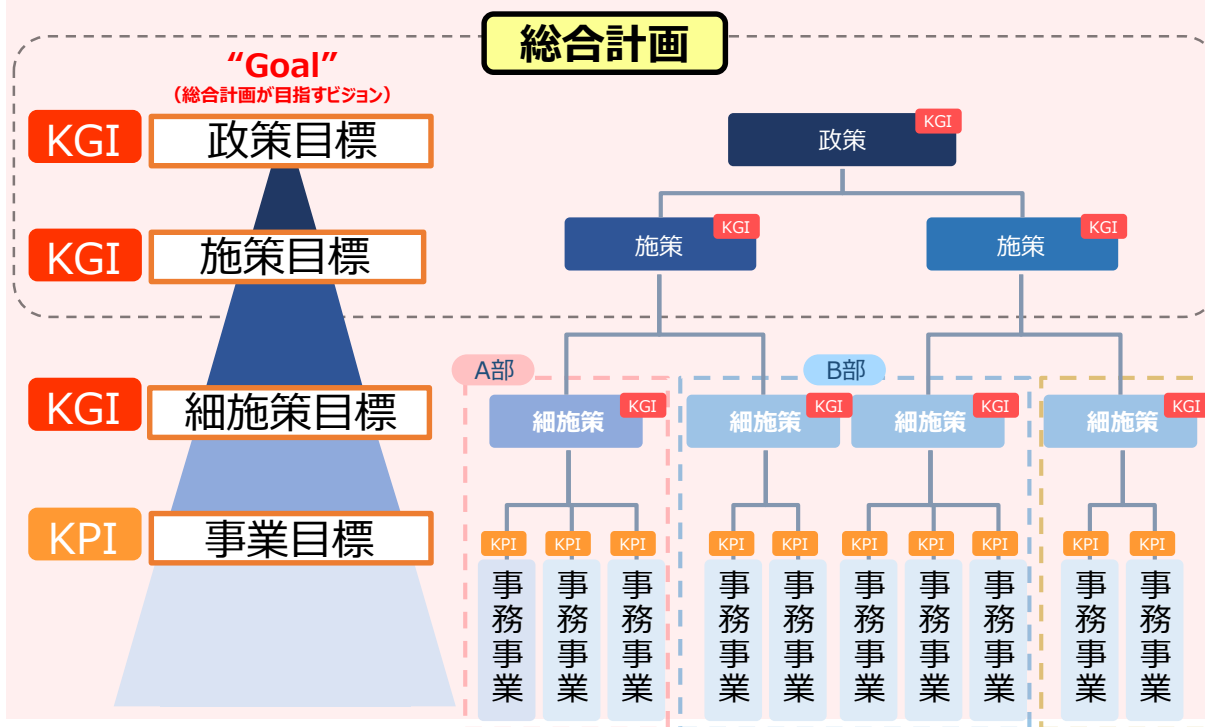
- ◆ 政策・施策評価と行政評価が別々の政策体系で実施。
- ◆ 長期計画と財源配分・事業の見直しの連動が不十分。



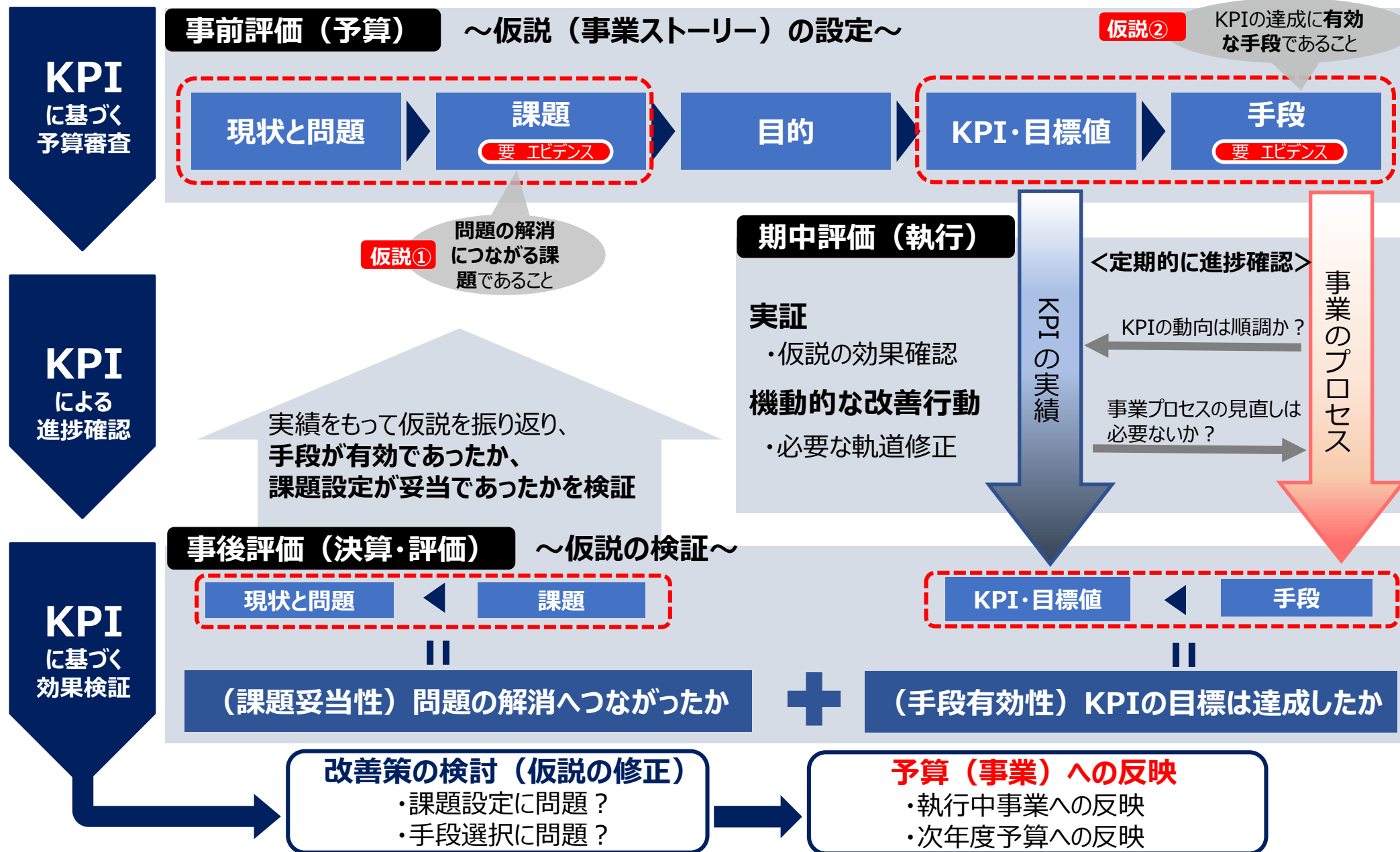
〈新たな政策体系〉

KGI・KPIの進捗状況に応じて政策全体を管理

- ◆ 総合計画に掲げる「政策」「施策」、部局単位で事業をまとめた「細施策」、個々の予算と対応する「事務事業」をツリー化し、KGI・KPIを設定。
- ◆ 事務事業のパフォーマンスを上位に位置するKGIへの貢献度で評価可能に。



KPIマネジメントの全体イメージ



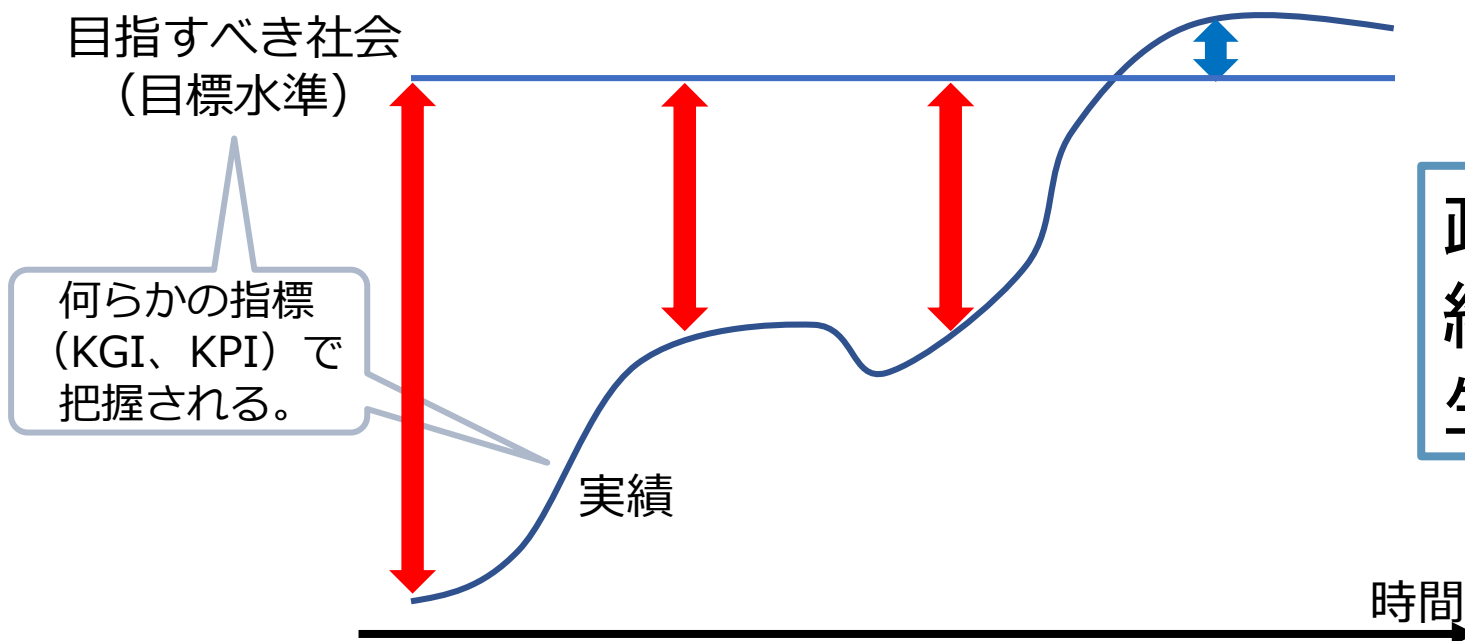
現状と課題（目標管理型行政運営の弱み）

■社会状態の目標水準と現状値（実績）とのギャップが縮小しているか（成果が出ているか）どうかを舵取りの指針とする行政運営の様式を目標管理型行政運営と呼ぶ。

- 問題であったギャップが解消していれば、政策は良好なパフォーマンスを発揮していると判断する。

= **因果関係までは確認していない場合が多い**

➡ 政策と政策効果 = 原因と結果



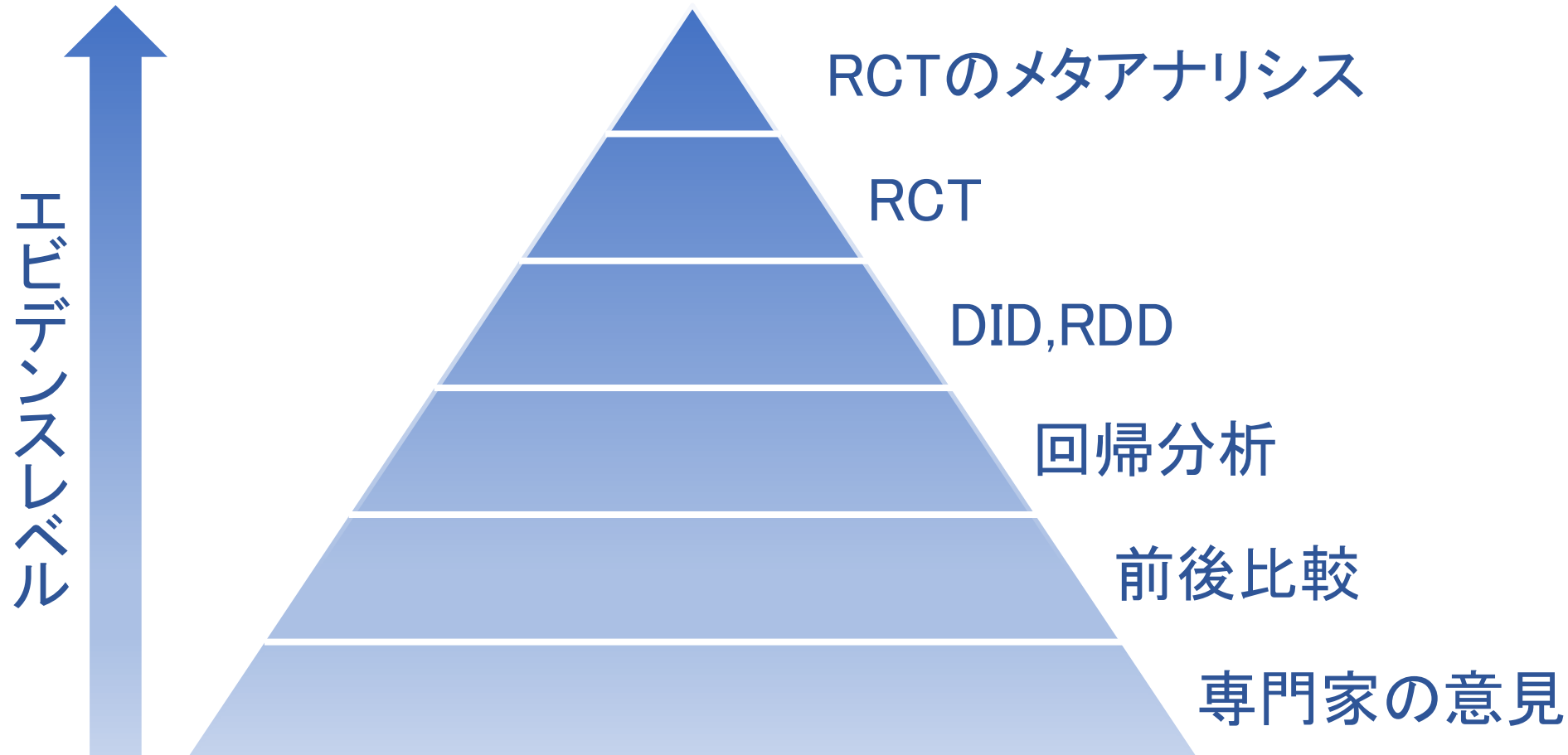
政策の効果が小さい・ない場合
経営資源の無駄などの問題が
生じている！

EBPMにおけるエビデンスとは

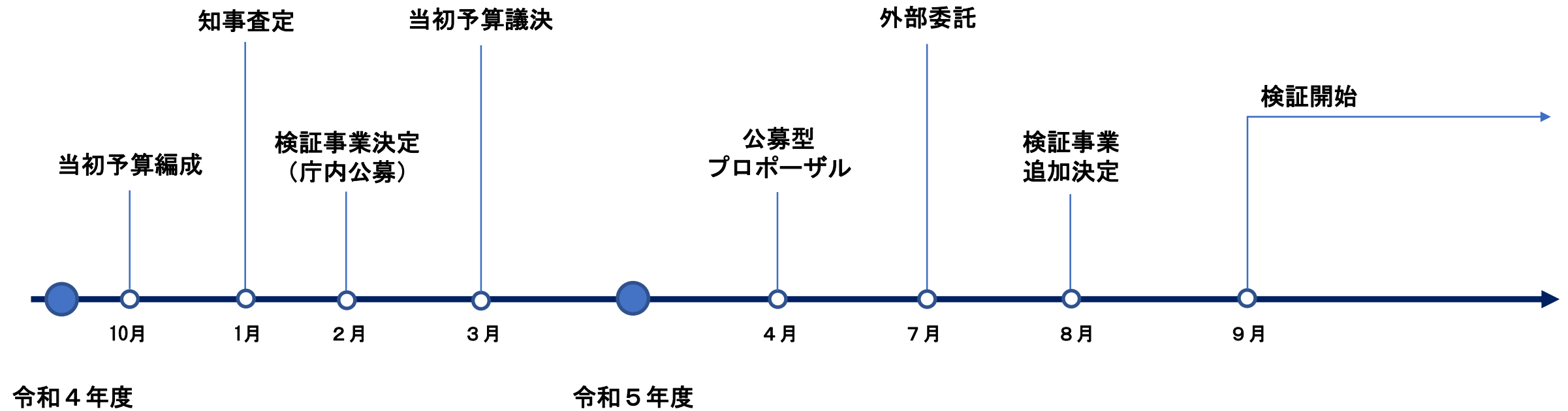
EBPMの取組においては、

「政策の**有効性を検証**した結果」をエビデンスと定義＝（狭義のエビデンス）

↳ **統計的因果推論**



事業効果検証の流れ



令和5年度EBPM推進事業について

目的

事業効果の検証をモデル事業として実施し、根拠に基づく政策立案体制の構築を図る

内容

ロジックモデルの作成・見直し
事業効果を適切に把握するための評価指標の設定
統計的手法を用いた因果推論（効果検証）

対象事業

- ① 企業合宿型ワーケーション定着促進事業
- ② 男性の家事参画・育休支援事業

企業合宿型ワーケーション定着促進事業

企業合宿型ワーケーション定着促進事業の概要

目的

ワーケーションを活用した新たな地域活性化
関係人口の創出

内容

地域の課題解決・地方創生の要素含み、地域との交流・協働を
通じた地域活性化を目的としたワーケーションへの補助金交付

KPI指標

誘致企業のワーケーションリピート率
前年度来県企業の30%

企業合宿型ワークショップのモデルコース

1日目

- AM 愛媛県着
- PM コワーキングでワーク
- 宿泊

2日目

- AM 地域課題の
現状レクチャー
- PM 現地フィールドワーク
課題解決ディスカッション
- 地元関係者との交流
- 宿泊

地域課題

3日目

- AM 課題解決ディスカッション
- PM 釣り体験
キャニオニング体験等
- 宿泊

4日目

- AM プレゼン資料作成
- PM プレゼン(関係者・市町)
- 解散

キャニオニング体験



地域産業の担い手の確保



地域産業の担い手の確保



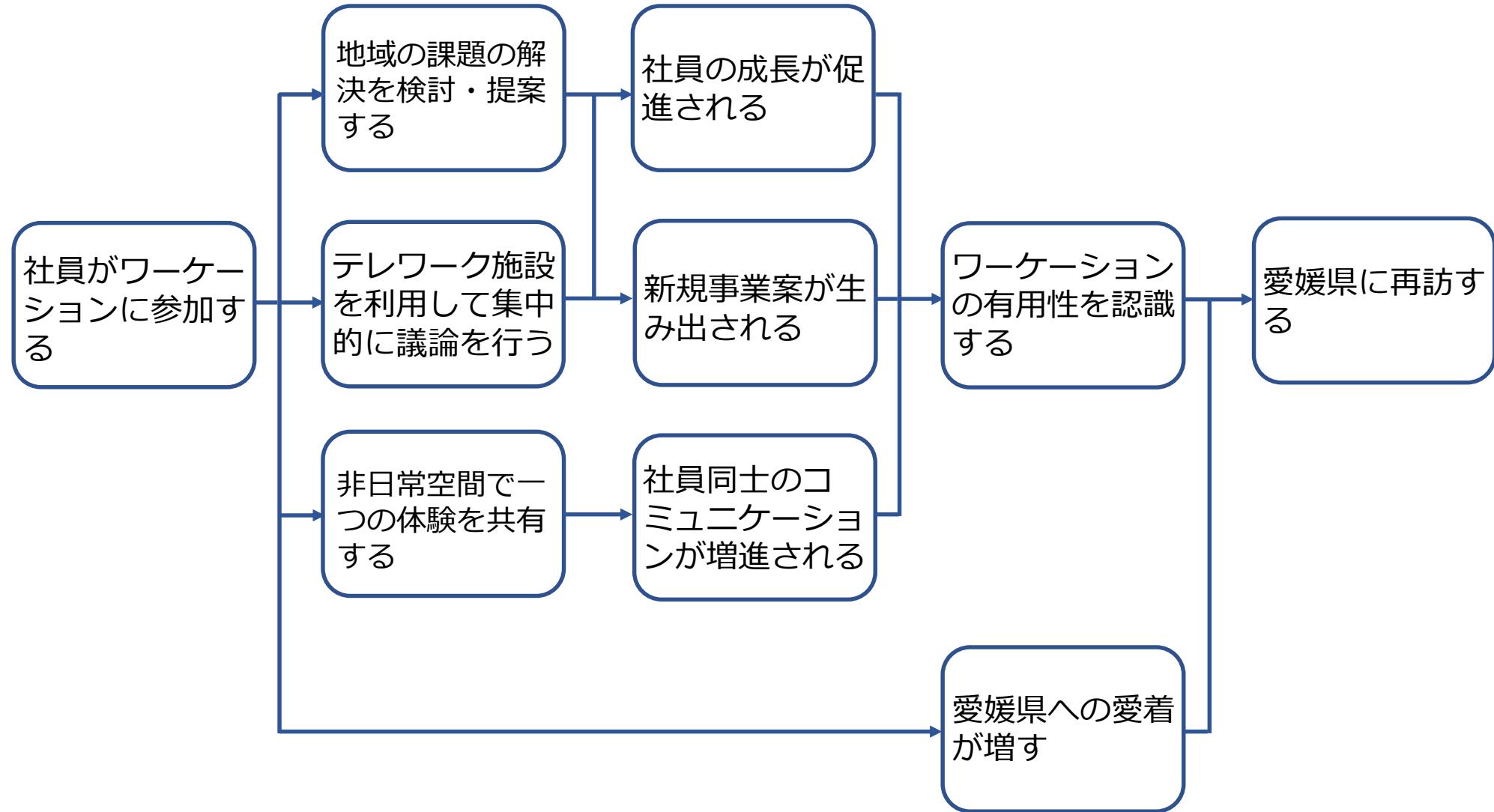
険しい山中での鳥獣害対策



増加する空き家



企業合宿型ワーケーション定着促進事業のロジックモデル



企業合宿型ワーケーション定着促進事業の分析手法

ランダム化比較試験 (RCT)	企業においてワーケーションへの参加者をランダムに選定 ワーケーション後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施
採用 マッチングによる統計的等価を施した差の差デザイン	各社員の属性データを利用 ワーケーション実施前後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施
差の差デザイン	ワーケーション実施前後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施
マッチング	各社員の属性データを利用 ワーケーション後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

企業合宿型ワーケーション定着促進事業の分析手法

ランダム化比較試験 (RCT)	企業においてワーケーションへの参加者をランダムに選定 ワーケーション後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施
--------------------	--

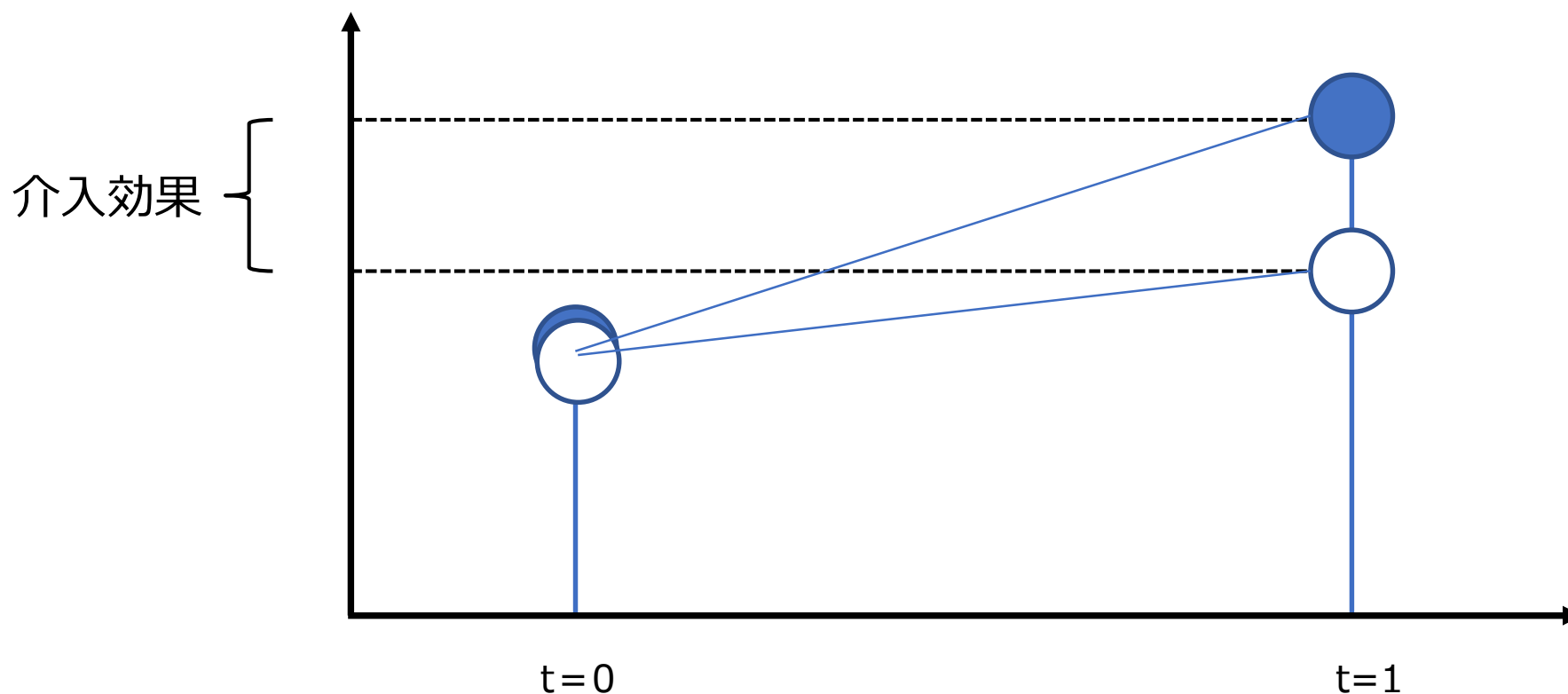
**サンプルが集まらなかったため
ワーケーション参加者を対象とした時系列分析（事前事後比較）を実施**

差の差デザイン	ワーケーション実施前後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施
---------	---------------------------------

マッチング	各社員の属性データを利用 ワーケーション後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施
-------	--

マッチングによる統計的等価を施した差の差デザイン

統計的マッチングによって参加者と性質の似た非参加者を選別し、そのうえで、両者のアウトカムについて介入前後の変化量を比較することで、介入効果を推計するデザイン



企業合宿型ワーケーション定着促進事業の検証結果

ワーケーション参加者を対象とした時系列分析（事前事後比較）

参加者の65%がより多くの業務アイデアを生み出したと回答

仕事での再訪希望
22.5%pt↑

インターネットで検索
15%pt↑

参加者の43%がより多くの新規顧客を開拓したと回答

関係イベントに参加
32.5%pt↑

観光での再訪希望
17.5%pt↑



**企業側は社員のアイデア創出、コミュニケーション活性化など
愛媛県側は関係人口増加、企業人材の誘致など
双方にメリットが生じている**

男性の家事参画・育休支援事業

目的

第2子以降の出生率に大きく影響する男性の家事・育児の参画促進を図り、出生数を増加させる

内容

家事分担等を見つめ直し、パートナーが協働して家事・育児などに取り組む家事シェアを一層推進するための勉強会を開催

KPI指標

休日の男性の家事・育児時間

現状値 1.5時間(R3) → 目標値 3.0時間(R7)

男性の家事参画・育休支援事業における出張勉強会

新入社員研修、中堅社員研修、管理職研修、各業界・経済団体の研修としてご活用下さい

男性の仕事と家事・育児両立支援事業



企業のための WorkLifeBalance 出張勉強会

無料
実施

お気軽にお問い合わせ
下さい。

女性活躍の推進や共働き世帯の増加に伴い、
男性の家事参画・育児休業の取得促進が求められる等
「男性社員のキャリア形成」に対する考え方も大きく変化しています。
そこで、この度「男性の働き方改革」を
テーマとした
出張勉強会を開催いたします。
あなたの職場の、
働きがいや労働生産性を高め、
職場の風土をアップデートしませんか？



対象に合わせた3つのプログラムから選択が可能です

経営者・管理職・人事担当者向け

「男性育休を経営戦略に！」

～令和時代の働き方改革が
採用優位性にもつながる～

時間：90～120分

【学びポイント】

- 男性育休推進のプロセスやプラス効果、課題
- 育休を取得したい、仕事もプライベートも大切にしたい若い男性社員の人材育成や取り組み
- 育休中男性社員へのケアや過ごし方アドバイス

中堅社員向け（子育て世代・既婚者向け）

「職場のチームワーク」

～両立を通じて、
助け合いの風土づくり～

時間：90～120分

【学びポイント】

- 時代の変化に対応したワーク&ライフ
- 仕事と家庭生活の役割分担、家事の見える化
- 職場や家庭内でのパートナーシップ

若手社員向け（20代30代向け）

「働き続ける・ ライフキャリアデザイン」

～働くことも暮らしも楽しむ～

時間：90～120分

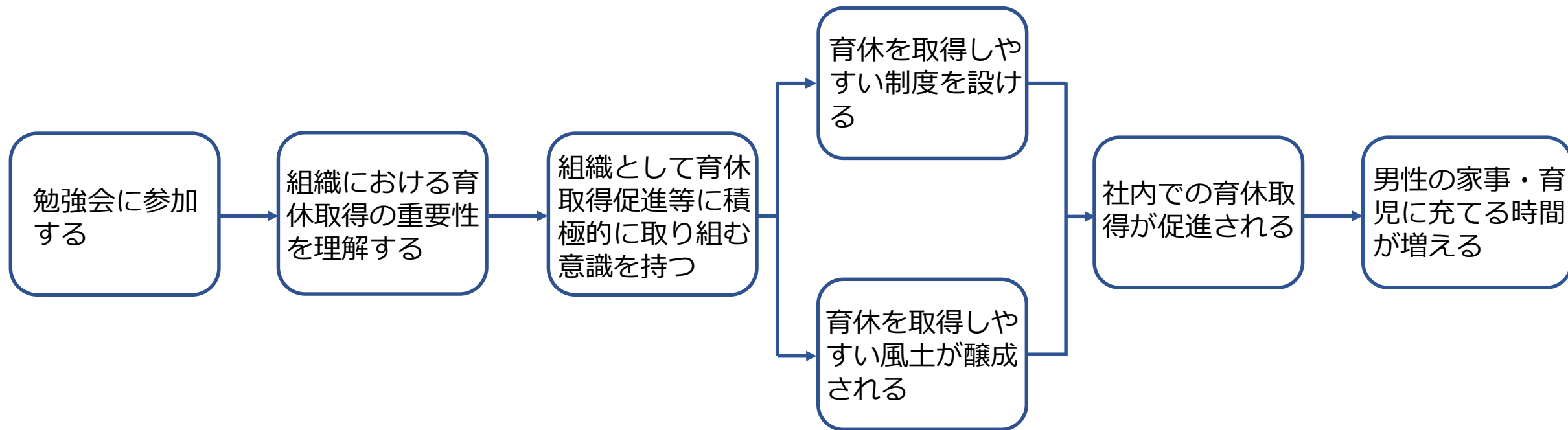
【学びポイント】

- これまでの仕事や人間関係の振り返り
- 会社と自分の価値観の統合
- 自己成長しながら働き続けるには



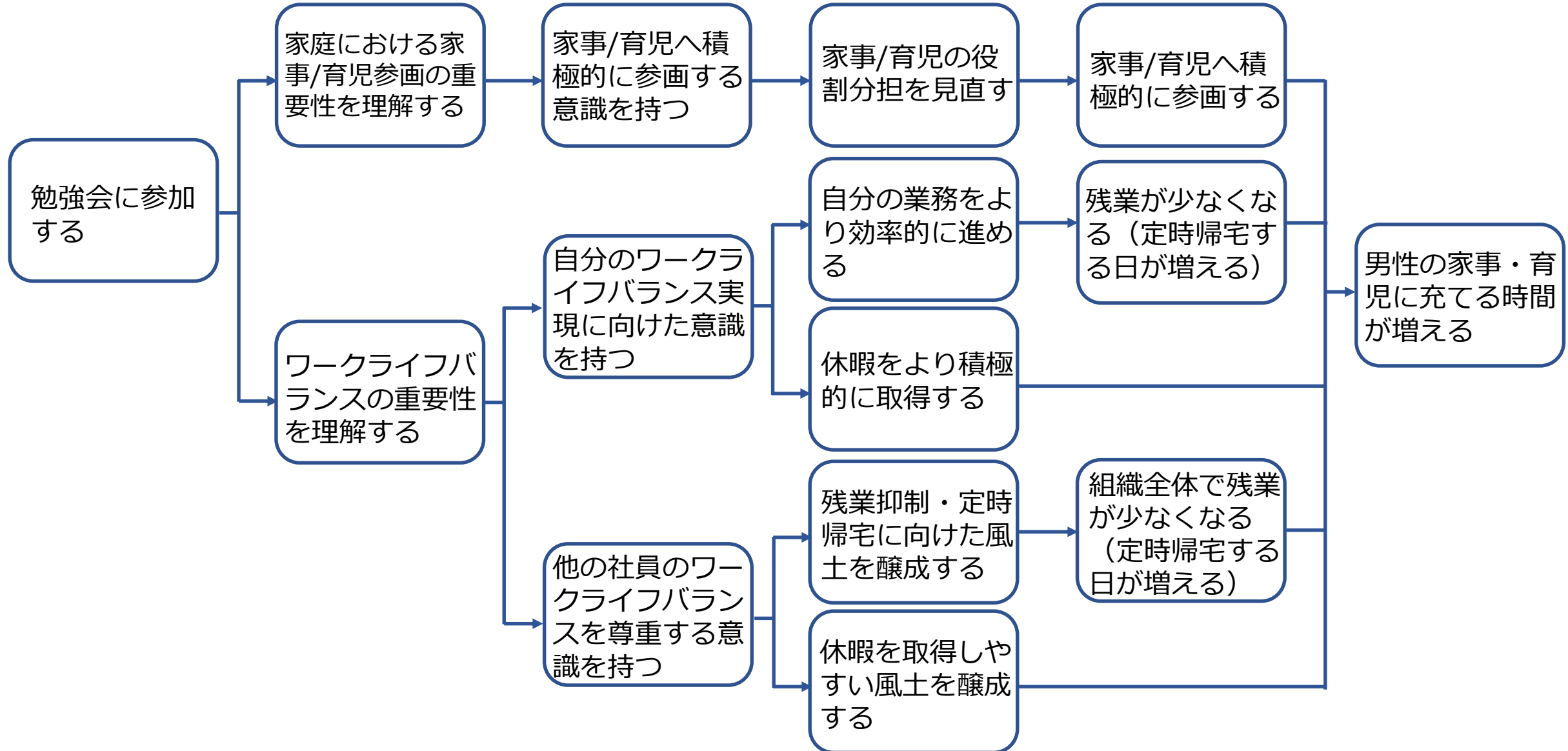
男性の家事参画・育休支援事業のロジックモデル①

ロジックモデル（経営者等）



男性の家事参画・育休支援事業のロジックモデル②

ロジックモデル（中堅社員）



男性の家事参画・育休支援事業の分析手法

ランダム化比較試験
(RCT)

企業において勉強会への参加者をランダムに選定
勉強会後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

採用

マッチングによる統計的等価を施した差の差デザイン

各社員の属性データを利用
勉強会実施前後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

差の差デザイン

勉強会実施前後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

マッチング

各社員の属性データを利用
勉強会後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

男性の家事参画・育休支援事業の分析手法

ランダム化比較試験
(RCT)

企業において勉強会への参加者をランダムに選定
勉強会後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

**サンプルが集まらなかったため
勉強会参加者を対象とした時系列分析（事前事後比較）を実施**

差の差デザイン

勉強会実施前後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

マッチング

各社員の属性データを利用
勉強会後に参加社員・非参加社員にアンケートを実施

男性の家事参画・育休支援事業の検証結果

勉強会参加者を対象とした時系列分析（事前事後比較）

休暇取得の意識
受講前から高い(85%)

家事・育児負担に係る意識
変化なし

休暇取得促進の意識
受講前から高い(100%)

平日/休日の家事・育児時間
変化なし

担当する業務の効率化の意識
受講前から高い(100%)

定時帰宅推奨の意識
受講前から高い(100%)



**勉強会受講前からワークライフバランスの意識は醸成されている
一度の勉強会のみでは男性の家事・育児時間の変化等の効果は明
確化できなかつたため、継続的な実施や行動変容に向けた多角的
なアプローチが必要**

効果検証における課題

事業設計後に検証事業として選定

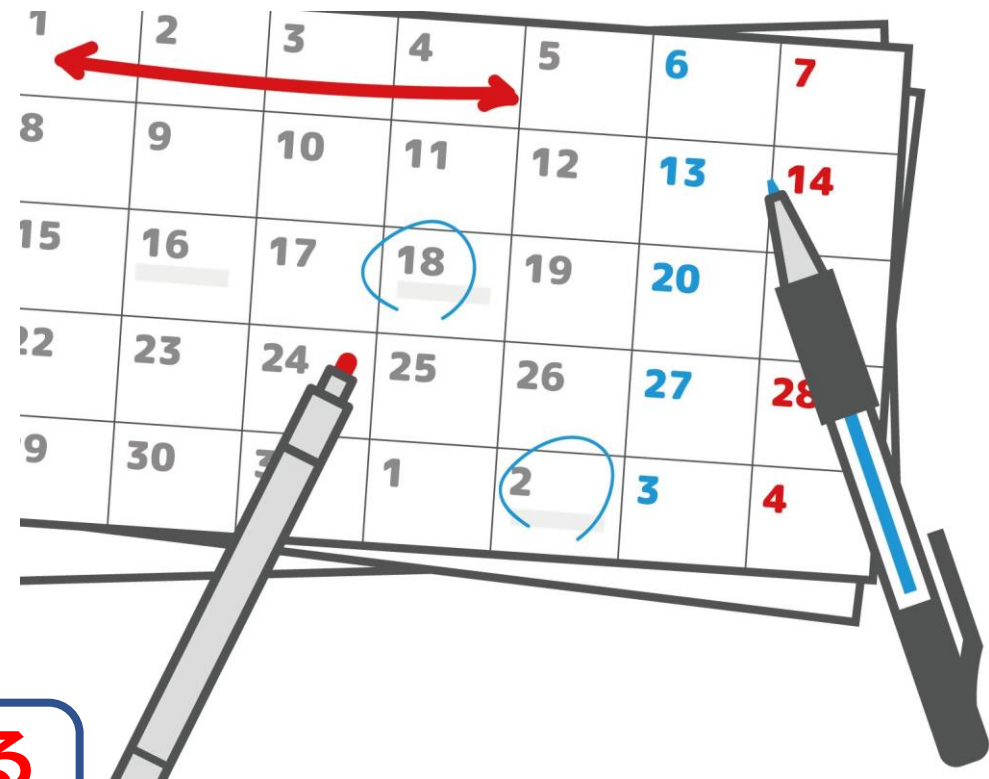
検証に最適化した事業設計ができていない

- 検証したい効果の確認に必要な期間の確保
- サンプルサイズの確保
- ロジックモデルの検討不足



事業と検証方法を同時並行でデザインする

予算編成時から、専門家による提案・助言を実施（令和6年度～）



事業内容決定に係るエビデンス不足

事業と目的のつながり（仮説）の検討が十分でない
事業の需要がない

→課題解決の手段として事業内容が不適
（ロジックモデルの検討不足も一因）
事業の改善点が不明慮



できる限り質の高いエビデンスに基づいて事業設計する

予算編成時から、専門家による提案・助言を実施（令和6年度～）



今後の目標

1. 職員のEBPMに対する理解促進
2. 成果重視マネジメント（財政課所管）におけるEBPMの取組のスキームを構築
3. EBPMの定着